

「2型糖尿病患者の糖尿病イメージを見るための質問紙」作成と有用性の検討

—糖尿病イメージと糖尿病コントロールの関係から—

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: 金沢大学
URL	http://hdl.handle.net/2297/37216

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



様式4A

学 位 論 文 要 旨

学位請求論文題名

「2型糖尿病患者の糖尿病イメージを見るための質問紙」作成と有用性の検討
—糖尿病イメージと糖尿病コントロールの関係から—

著者名・雑誌名

釜谷 友紀, 稲垣 美智子, 多崎 恵子
日本看護科学会誌

金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻

領 域	看護科学
分 野	慢性・創傷看護技術学
学籍番号	0627022006
氏 名	釜谷 友紀
主任指導教員名	稲垣 美智子
指導教員名	須釜 淳子
指導教員名	木村 留美子

研究背景と目的

糖尿病は世界的に増加し、糖尿病合併症予防のため疾病コントロールの対策が検討されている。Disease Image (疾病イメージ) は療養行動を統制する機能を持つとされ、筆者らは糖尿病患者の療養行動を統制するような疾病イメージについて研究してきた。

2 型糖尿病患者がもつ糖尿病イメージを質的手法により調査し、28 個示した。イメージは療養生活の感じ方により形成されることが明らかにされ、糖尿病イメージは療養の様相を反映していると考えられた。この結果は、糖尿病イメージを把握可能であれば、疾病管理に糖尿病イメージからアプローチする新たな切り口が見出せると考えた。

そこで本研究は、質的に見出された 2 型糖尿病患者の糖尿病イメージの項目から糖尿病イメージを見るための質問紙を作成し、その有用性について、イメージの相違による療養の様相の違いを糖尿病コントロールとの関係性から検討することを目的とした。

研究方法

先行研究を参考に「2 型糖尿病患者の糖尿病イメージを見るための質問紙」原案を作成し、3 施設の自記式質問紙に対応できる 2 型糖尿病患者を対象に調査を実施した。

調査項目は、質問紙原案 (基本属性、糖尿病イメージを測定する項目)、糖尿病コントロール (代謝コントロール指標: HbA1c, QOL 指標: 糖尿病問題領域質問票 (PAID)、セルフケア行動指標: 慢性病者のセルフケア能力を査定する質問紙 (SCAQ)) とした。

分析は、統計的方法を用い、検定の有意水準は $p < 0.05$ 、解析には SPSS を使用した。分析手順は、2 型糖尿病患者の糖尿病イメージを見るための質問紙作成として①項目分析②探索的因子分析による因子の抽出と命名③構成概念妥当性の検討④内的整合性の検討⑤モデル妥当性の検討を行い、その後因子得点をもとに Cluster 分析で 2 型糖尿病患者を分類した。分類されたクラスター別に糖尿病コントロールとの関係を検定比較した。

倫理的配慮として、本研究は金沢大学医学倫理委員会の承認を得て実施し、PAID 及び SCAQ についてそれぞれの著者の承諾を得て尺度を使用した。

結果

調査票配布部数は 450 部で、279 部回収した (回収率 62.0%)。分析対象は 167 名 (有効回答率 59.9%) となった。性別は男性 134 名、女性 25 名、無回答 8 名であった。年齢は 28 歳から 88 歳であり、平均は 62.6 ± 11.6 歳であった。

1. 「2 型糖尿病患者の糖尿病イメージを見るための質問紙」の作成

探索的因子分析により、7 因子、28 項目を採択した。因子名は、第 1 因子『劣等を感じるイメージ』、第 2 因子『きちんと生活するイメージ』、第 3 因子『制約感のあるイメージ』、第 4 因子『衰れを感じるイメージ』、第 5 因子『付き合いされているイメージ』、第 6 因子『不摂生のイメージ』、第 7 因子『末恐ろしいイメージ』とした。質問紙全体の信頼度係数 Cronbach's α 係数は 0.91 であった。

2. 糖尿病イメージ 7 因子による 2 型糖尿病患者のクラスター分類

2 型糖尿病患者の糖尿病イメージ 7 因子による因子得点を算出し、Cluster 分析を行った

結果、3つのクラスタに分かれた。各クラスタの人数は、クラスタ A : 72 人、クラスタ B : 57 人、クラスタ C : 38 人であった。各クラスタの糖尿病イメージ 7 因子の特徴は、クラスタ A は全体的に得点が高い。クラスタ B は、第 1・3・4・5 因子の得点がクラスタ A よりも有意に低い。クラスタ C とは、第 1・5 因子は同様な得点で、その他はクラスタ C よりも有意に高かった。クラスタ C は全体的に得点が低かった。判別の中率（交差確認済み）は、91.6%であった。

3. 2 型糖尿病患者の 3 つのクラスタと糖尿病コントロールとの関係性

HbA1c は、各クラスタにおいて有意な関係性は認められなかった ($p=0.546$)。PAID 得点及び SCAQ 得点との関係性は、クラスタ A は PAID, SCAQ 得点が共に高い、クラスタ B は、SCAQ はクラスタ A と同様高いが PAID はクラスタ A よりも低い。クラスタ C は、PAID, SCAQ 得点が共に低く、特に健康管理への関心がクラスタ A, B よりも低かった。

考察

本質問紙は 2 型糖尿病患者の糖尿病イメージを見るための指標として実践で活用可能と考えられた。糖尿病イメージを 7 因子構造で説明でき、視覚的に把握することが可能となり、変化を捉えるなど今後の看護に結びつく結果であるといえる。

糖尿病イメージ因子において、クラスタ A のみ得点差がある項目は第 1・5 因子である。PAID における有意な得点差がクラスタ A と他のクラスタ間にあるため、これらのイメージは療養負担感につながる糖尿病イメージであることが考えられる。また、クラスタ C のみ得点差がある項目は第 2・6・7 因子である。SCAQ において得点差がクラスタ C と他のクラスタ間にあるため、これらのイメージはセルフケアに関する療養生活、特に健康管理への関心につながる糖尿病イメージであることが考えられる。

結論

1. 「2 型糖尿病患者の糖尿病イメージを見るための質問紙」を作成できた。
 - 1) 2 型糖尿病患者の糖尿病イメージを 28 項目 7 因子構造の質問紙を作成できた。
 - 2) 糖尿病イメージ 7 因子により、2 型糖尿病患者は 3 つのクラスタに分けられた。
2. 各クラスタと糖尿病コントロールとの関係性は、HbA1c に有意な関係性は認められなかったが、SCAQ 及び PAID 得点において、各クラスタの関係性に差が見られた。

以上より、2 型糖尿病患者の糖尿病イメージ 7 因子による分類は、内容により患者の糖尿病コントロールに関連していることが明らかにされ、「2 型糖尿病患者の糖尿病イメージを見るための質問紙」によって糖尿病イメージを把握することの有用性が示された。